― 切り出す側のメリットを伝え、業務切り出しをスムーズに行っていく ―

ホールディングスカンパニー

※イメージ写真

事業概要　：　総合物流事業
従業員数　：　195人（平成30年12月現在）
サポーター：　山本さん・仮名（職場上司）
被支援者　：　30代（精神障害）
勤続年数　：　1年6ヶ月（平成31年3月現在）
業務内容　：　給料支払い業務、人事事務補助業務

支援内容		
	取組み ➡	セルフチェックシート 業務切り出し説明会
	効果 ➡	体調・メンタル面の把握、業務切り出し

疲労が蓄積して休職したAさん 1日5時間・週4日勤務にて職場復帰

サポーターの山本さんの会社は、平成27年に多様な人材を積極的に受け入れていくという方針により、これまでの身体障害者に加えて、新たに精神障害者の採用も始めました。現在は障害のある社員が4名活躍しており、その中の1人がAさんです。

Aさんは学生時代、就職活動をきっかけに、うつ病を発症しました。その後、自分の障害を理解してもらい長く働きたいと考え、障害者枠で働くことを決意し、ハローワークのミニ面接会を経て平成29年9月に入社しました。

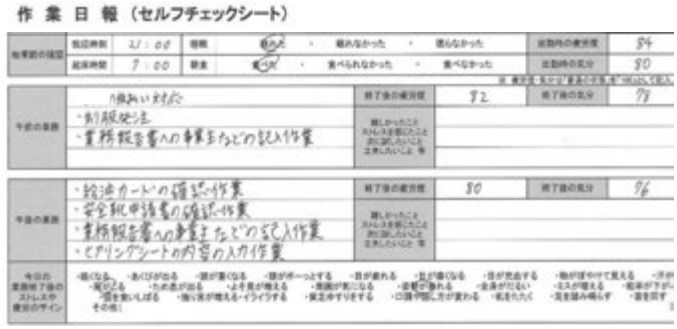
Aさんは、人事部の事務補助業務を任され順調に勤務していましたが、だんだんと増えていく業務に疲労が蓄積していき、入社4か月目に体調を崩して休職しました。そして、精神保健福祉士や登録している就労支援機関のカウンセリングを受けながら、1日5時間・週4日という時短勤務で職場復帰することになったので、山本さんは人事担当としてAさんのサポートを始めました。

※イメージ写真

養成講座に参加し、個性に合わせたサポートが必要なことを学ぶ

山本さんは、作業日報を兼ねた「セルフチェックシート」を使い、睡眠、食事、疲労、気分など、Aさんの体調やストレスの状況を確認していきました。「セルフチェックシート」はAさんに業務開始時と終了時に疲労や気分の状況を記載してもらい、精神保健福祉士や支援機関とも共有して、Aさんを多方面からサポートしていきました。

＜実際のセルフチェックシート（抜粋）＞



作業日報（セルフチェックシート）

始業前の確認	起床時刻	21：00	睡眠	眠れた・眠れなかった・寝られなかった	出勤時の疲労度	54
	就床時間	7：00	朝食	食べられた・食べられなかった・食べなかった	出勤時の気分	80
今日の業務	・朝礼対応 ・制服処理 ・業務報告書への事業所などの記入作業		終了後の疲労度	72	終了後の気分	78
今日の業務	・給油カードの確認作業 ・安全証明書の確認作業 ・業務報告書への事業所などの記入作業 ・ヒアリングシートの内容の入力作業		終了後の疲労度	80	終了後の気分	76
今日の業務終了後のストレスや疲労のサイン	・眠くなる、・あくびがでる、・頭が重くなる、・頭がボーっとする、・目が疲れる、・目が重くなる、・目が充血する、・物がぼやけて見える、・肩が凝る、・ためいきがでる、・よく手足が冷える、・集中力がなくなる、・全身がだるい、・スネが痛える、・起床がすがすがしい、・頭を動かしにくい、・強い光が眩しい、・イライラする、・緊張しやすくなる、・口臭や口腔内が気になる、・疲れたなと、・完全燃え尽きず、・寝ても寝ても疲れが取れない、その他：				

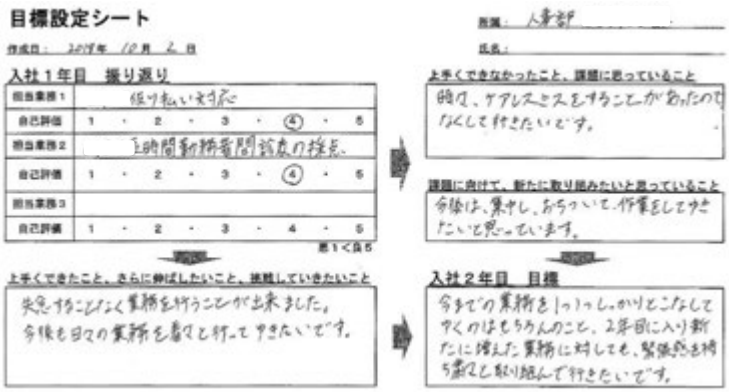
「セルフチェックシート」を使い始めたものの山本さんは、Aさんに安定して働いてもらうには、どのようにサポートしていけばいいのか不安がありました。そんな折にサポーター事業のことを知り、早速養成講座を受講しました。養成講座では他社の就労職場の見学や参加者同士のディスカッションを通じて、長期的な就労につなげるためには、社員の個性に合わせたサポートが必要なことを学びました。そして、サポーター登録後の定期訪問の際に、サポーター支援員から、Aさんが入社してちょうど1年となるので、「目標設定シート」の作成を勧められました。

「目標設定シート」を作成し、1年目の振り返りと2年目の目標を確認

「目標設定シート」は入社1年目を振り返り、上手くできたことや、課題だと思っていることを自分で書き出し、現状把握した上で、今後の目標を定めるというものです。

Aさんが作成した「目標設定シート」は自己評価が5段階評価の４であり、Aさんにとって評価できる1年だったということが分かりました。山本さんは「目標設定シート」を元に面談を行い、「新たに増えた業務に対しても緊張感を持って粛々と取り組んでいきたい」という2年目の目標を確認することができました。

＜実際の目標設定シート＞



「自分の時間の捻出につながる」説明会にて業務切り出しのメリットを訴求

Aさんの目標のために、山本さんは様子を見ながら自身の業務を切り出し、新たに任せていきました。山本さんはAさんが、業務に順応できていることを確認できたので、勤務時間を延ばしていくことをAさんに提案しました。すると本人からも 「頑張っていきたい」という意気込みが返ってきたので、山本さんは、勤務時間の延長のために業務量を増やす方法をサポーター支援員に相談しました。サポーター支援員から、勤務時間の延長は、体力的にも精神的にも負荷がかかるので、段階的に少しずつ延ばしていくことを助言されました。また、業務量を増やす方法については、「自分の時間が捻出できる」などの、業務切り出しのメリットを周囲の社員に伝えて協力を得るとよいとアドバイスされました。

山本さんは支援員から提供された資料を用いて課内の社員に向けて業務切り出しの説明会を行い、メリットの他に、自分の業務を見直すことが「働き方改革」にもつながると呼びかけました。Aさんの業務を増やすという目的で始めた「業務切り出し」でしたが、社員が自分の業務の棚卸を行い、手順の見直しや効率化を考える良いきっかけにもなりました。

山本さんは、現状の週4日勤務を隔週で週5日勤務にすることをAさんと話し合っています。今後、さらに勤務時間が延びていくことでAさんの活躍の場が広がり、また、「業務切り出し」によって周囲の社員の働き方が変わっていくことを山本さんは期待しています。

山本さん 「グループ会社の雇用事例を集約し、有益な情報を発信していきたい」

支援員からアドバイスされた入社1年目の振り返りや2年目の目標設定は、Aさんの内面を知る良い機会になりました。また「業務切り出し」には、いろいろなツールを提供してくれて大変助かりました。

Aさんは事務処理能力が高くパソコンも得意なので、今後、さまざまな業務を任せられる人材だと思っています。体調をしっかりと自己管理していき、活躍の場を広げていって欲しいと願っています。

これからは持株会社の障害者雇用担当として、グループ会社の雇用事例やノウハウを集約していき、障害者雇用に関する有益な情報を各社に発信していきたいと考えています。そして、障害のある社員を含む全ての社員が安心して働ける環境を作っていくことが、私の使命だと思っています。